

序

今日、盲・聾・養護学校が地域の特殊教育に関する相談センターとしての役割を果たすことを期待されている。こうした状況の折、ナショナルセンターとしての当教育相談センターの教育相談研究室がどのような研究情報を各地域に提供すべきか、論議してきた。

障害のある子どもが一貫した相談支援体制の中で対応され、可能な限り居住地域に密着した場での対応が重要である。そこで、このことを実現するには教育（特殊教育）センターや盲・聾・養護学校、特殊学級、通級指導教室が地域で果たすべき機能と連携のしかたについて明らかにし、その方法や実践例を各地に情報提供することが、私達の課題であろうと考え、この報告書をまとめた。

本報告書には、第1部として、特殊教育センターの役割と連携について、システム構築に関する論考、就学指導の現状、地域の人口規模別に見たセンターの役割、教育相談講習会参加者へのアンケート調査から機関間の連携に関して行っているやり取り情報についてまとめた。

また、第二部では、地域システムと相談・連携の実際として、養護学校における早期教育相談の現状、事例を通して見えてくる地域システムと連携、小学校の通級指導教室における協働の実際、特別な支援を要する校内サポート体制の実践といった観点から、それぞれ研究協力者にまとめていただいた。

さらに、われわれ研究室での2年間の研究からの知見を、まとめとして掲載した。

研究としては更に深めていく点が多々あるが、各地で行われている教育相談やこれからの教育相談の在り方への参考資料となれば幸いである。

平成15年2月

教育相談センター長

後 上 鐵 夫

研 究 の 組 織

研究協力機関

福岡教育大学教育学部附属障害児治療教育センター
(センター長 木 船 憲 幸)

研究協力者

上 田 恭 子 (神奈川県公立小学校)
田 中 み か (神奈川県公立小学校)
寺 崎 裕 志 (福岡市発達教育センター)
中 里 真利子 (藤岡市立藤岡第一小学校)
山 根 美 保 (鳥取県立皆生養護学校)
大 賀 たえ子 (国立久里浜養護学校)

所内研究分担者

後 上 鐵 夫 (教育相談センター長・教育相談研究室長)
小 林 倫 代 (教育相談センター・教育相談研究室)
伊 藤 由 美 (教育相談センター・教育相談研究室)
植木田 潤 (教育相談センター・教育相談研究室)

目 次

序 文	後上 鐵夫
研究の組織	
研究の趣旨及び経過の概要	1
<特殊教育センターの役割と連携について>	
教育機関からみた他機関との支援	
ー連携の取り方と情報の扱いの現状ー	伊藤 由美・小林 倫代 … 3
地域の人口規模別にみたセンターの役割	
ー「障害のある子どもの教育相談に関する実態調査」第一次調査結果からー	植木田 潤 … 17
就学相談と地域におけるセンターの役割	寺崎 裕志 … 27
システムの構築に向けて考えること	
ー多様な特殊教育センターの役割分担と階層性についてー	木船 憲幸 … 31
<地域システムと相談・連携の実際>	
養護学校における早期教育相談の現状	
ー機関訪問相談活動からみた連携の在り方ー	大賀たえ子 … 37
事例を通して見えてくる地域システム・連携	
ー養護学校での実践ー	山根 美保 … 53
幼児期から学童期への療育相談・地域システムの実際	
ー小学校「ことばの教室」の“協働”ー	中里真利子 … 61
特別な教育的支援を必要とする子どもの支援	
ーその実態と校内サポート体制ー	田中 みか・上田 恭子 … 67
<まとめ>	
ライフサイクルに応じた一貫性のある教育相談支援	
ー家庭養育から学校教育に至る教育相談活動のまとめにかえてー	小林 倫代 … 77